

Wセミナー 外務専門職講座

本試験で得点UP！模試の上手な受け方セミナー【外務専門職】

レジュメ資料

担当講師：武里賢一

公開模試の意義

外務省専門職採用試験の1次試験の予行演習

- 本試験とほぼ同じ時間帯で実施。
- “当日の流れ・リズム”を試す絶好の機会。

公開模試受験上の留意点

①論文答練第6回が4月14日(土)

- 公開模試は実質的に“論文答練第7回”。
- 公開模試の日程も視野に入れて準備する。

②教養択一(基礎能力試験)の目標

- 24～27点以上(40点満点)
- 本試験2ヶ月前の時点で「1次合格ライン(本試験100位以内)」をクリアしたいところ。できる限り上位を狙う。

公開模試(教養択一)の活用方法1

①模試終了直後

- ・きちんと解けたかどうかのチェック
→まぐれ当たりでなかったかどうかをしっかりとチェックする。
- ・解法のチェック
→自分の解き方が正しかったかどうか、ベストの解法だったかどうかをチェックする。
- ・知識問題について出題形式をチェック
→誤りの選択肢がどのように作られているかをチェックする。
→何を知っていると正誤を判断できるのかをチェックする。

②成績表受け取り後

- ・ 正解率のチェック

→正解率が高い問題で自分が間違えている問題について、自分が解けないものなのかどうかを検証する。

- ・ 順位・偏差値をチェック

→絶対的な点数とともに自分の相対的な位置をチェックする。

→全体の上位 25%以内であることが理想。

公開模試の活用方法 2

①標準点の計算

→専門記述(3科目合計)、教養択一、時事論文、英語ごとに下記の式に従って標準点を計算し、合計する。

$$\text{標準点} = 10 \times \text{配点比率} \times \text{偏差値}$$

②合格ラインの確認

→標準点が1次合格ライン(満点の60%)、最終合格ライン(満点の70%)を超えているかを確認する。

→超えていない場合は、足りないところを分析し、直前期に補強する。

国家総合職模試(教養択一)受験のススメ

- ・ 2012年3月4日(日)と3月18日(日)に実施される国家総合職模試の教養択一を受験することをお勧めします。

→この時点で20～24点以上(40点満点)であれば、“足切りクリア”と言える。

→両日とも「論文答練の翌日の午前中」に行われるので、本試験の予行演習にもなる。

以上